

学校法人 滋慶学園 東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校

2022年度 学校関係者評価委員 評価結果

2022年度自己点検自己評価(2022年4月1日～2023年3月31日による)

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	学校関係者評価委員よりの御意見	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	3	学校法人滋慶学園 東京スクールオブミュージック&ダンス専門学校は、学校法人滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通じて社会に貢献していく」ことをミッション(使命)としている。「3つの建学の理念」(「実学教育」(※2)「人間教育」(※3)「国際教育」(※4))を実践し、「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生と保護者の信頼 ④地域の信頼)を得られるように学校運営をしている。建学の理念に基づき、東京スクールオブミュージック専門学校は音楽、エンターテインメントを通して、人に喜びや感動を与えられる、業界で「即戦力」となる人材育成を目的として学校運営をしている。現在、音楽、放送、エンターテインメント業界を取り巻く社会の環境は大きく変化している。職業の現場で求められる知識・技術の高度化や、より付加価値の高い人材の必要性を背景に、本校では、2年制課程のみならず、3年制課程、4年制課程も設置し、また、『産学連携教育システム』により、様々な変化にも対応できる人材の育成を実現してきた。	(※1)「学校法人滋慶学園グループ」昭和51年の創立以来、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことをミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、建学時から変わらない「3つの理念」(実学教育、人間教育、国際教育)と「4つの信頼」(業界からの信頼、高校の先生からの信頼、学生・保護者からの信頼、地域からの信頼)を実践することで、理想の教育実現を目指す。医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡まで約80校を有する。  (※2)「実学教育」スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。  (※3)「人間教育」開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。  (※4)「国際教育」コミュニケーション言語としての英語を身につけるだけでなく、日本人としてのアイデンティティを確立した上で、広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。	<b>【評価点…3】</b> 建学の理念に基づき学校運営がなされている。様々な変化にも対応できる人材育成を実現できているところを高く評価したい。(根本氏)  素晴らしい理念だと思います。(西川氏)  問題なし。(井上氏)  しっかりした理念も定められていることが素晴らしいと思います。時代に合わせた動きができていますと感じます。(松本氏)  素晴らしい理念だと感じます。今後もぶれずに目的に向かってください。(池田氏)  どんなにネット社会になろうともこの学校の掲げる理念は必要であると思うし、そこから出てくる特色、将来構成もしっかりしている。(高橋氏)  高校としても非常に信頼でき安心して生徒の進路先として推薦できると確信しました。(朝日氏)		
	1-2 学校の特徴は何か						
	1-3 学校の将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3	諸環境の変化に対応できるように、事業計画については、滋慶学園グループが毎年、長期・中期・短期展望をし、事業計画を作成している。それを受けて、滋慶COMグループが短期事業計画を作成するが、そのもとになるのが、滋慶COMグループに属する各学校が作成する短期事業計画であり、毎年作成しているこの事業計画書が各学校における運営の核となるものである。事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。それを受け、各学校では毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修もを行っている。事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等々についてが明確に示されている。運営組織は、事業計画の核をなす組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものである。単年度の運営も、中期計画の視点にたって行われる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。  学校がもっとも大切にしていることとして、滋慶学園グループの中期・短期の事業計画に沿って、採用と人材育成行い、様々な研修において目標達成に向け、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、また関わるすべての人が学校の方向性、学校の方針の実現に向けて同じ方向を向くために、各種研修や会議、ミーティングにより、コミュニケーションの重要性を確認している。	各学校における事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署について考えられ、また、すべての部署が同じ方針・考え方を理解し、徹底している。学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。さらに、学校全体として、各学科における「3つのポリシー(アドミッションポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシー)」を掲げ、全職員と共有が出来ている。	<b>【評価点…3】</b> 事業計画書と合わせて今後の推移を見守りたい。(根本氏)  スタッフの教育がされていることが大事だと共感します。その部分が研修として行われそれがあからこそ、人を育てるという部分にイコールしてくると思います。環境変化に備えて短期的な計画を立てていることも素晴らしいです。(松本氏)  問題なし。(井上氏)  時代の変化に対応した視点を忘れずをお願いします。(池田氏)  枠組みはしっかりと作られているため、カリキュラムなどの内容構成をしっかり定めていくことが重要だと思います。(高橋氏)  未来を見据えこれからのニーズを的確に捉え、長期・中期・短期間に分け、事業計画を立て学園全体が目的達成のために努力工夫していることがよく理解できました。(朝日氏)		
	2-5 事業計画は定められているか						
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか						
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか						
	2-8 意思決定システムは確立されているか						
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか							

<p>3 教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p>2</p>	<p>職業教育は常に業界と密接な関連を持たなければ、教育目標、育成人材像は正しく方向づけられないと考えており、業界の人材行動を常にキャッチし、その変化に対応して養成目的や教育目標の見直しを毎年実施している。</p> <p>本校は教育システムとして、独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出できている。</p> <p>教育目標達成のためのカリキュラムは、入学前から卒業まで、体系的に編成されているが、常に音楽/ダンス&amp;アクター教育部会等で研究、見直し等を行っている。カリキュラムは学科(専攻)に関わるもののみならず、社会的・職業的自立を目指し、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価を実施しているが、これを通して講師や学生の状況を正確に把握し、総合的な判断ができる要因となっている。</p> <p>成績評価・単位認定の基準を明確にし、学生指導を行っているが、明確な基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。</p> <p>資格取得については、業務を行う上で必要な資格、就職に有利な資格という範囲で取得に向け、支援を行っている。</p>	<p>開設以来、教職員の目標として、</p> <p>1. 専門就職率 100% (就職者/専門分野就職者)</p> <p>2. 退学率 0% (入学者は全員卒業してもらう)</p> <p>を掲げ、その達成のために構築した2つの重要なシステムを構築している。第1のシステムは入学前の自己発見→自己変革→自己確立という、自己3段階教育と、動機づけ・目的意識づけプログラムである。</p> <p>入学前からの一貫した育成システムと目的意識をもって取り組むプログラムの組み合わせにより、モチベーション向上を果たしている。</p> <p>第2のシステムは、即戦力としての実践的技術・知識、ビジネスマインド等を身につけるための教育システムー「産学連携教育システム」である。</p> <p>これには、次の6 つが挙げられる。</p> <p>①企業プロジェクト ②Wメジャー・カリキュラム ③業界研修 ④海外実学研修 ⑤特別ゼミ ⑥就職・デビュー事務局 である。</p> <p>また、教育システムのさらなる開発のため、滋慶COMグループの音楽系全校から構成する「パフォーミングアート教育部会」「ダンス&amp;アクター教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上化を図っている。</p> <p>主な研究内容は、①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラム検討 ③生涯教育プログラム ④教職員研修 ⑤国際教育システム開発 ⑥イベント・卒業研究の運営 等である。</p>	<p>【評価点・・・2】</p> <p>様々な要因があり最終目標を達成することは難しいことも理解しているので、質の向上を追求してほしい。(根本氏)</p> <p>色々と考えカリキュラム構成を行っていると思います。(西川氏)</p> <p>海外研修を含めしっかり構成されていることはとても良いと思います。一人ひとりの個性が大事だと思うので、カリキュラムも大事ですが個性を伸ばす取り組みもお願いしたいです。(松本氏)</p> <p>やる気のある生徒がやる気を失わず、希望をもって学べるのが大事だと思います。(井上氏)</p> <p>産学連携教育システムの内容がとてもよく理解できました。(池田氏)</p> <p>資格取得などは積極的に取り組んでいると思います。(高橋氏)</p> <p>色々な関係要因からの変化が絶えない現状において、関係団体との関係をより密にし、育成人材像や、教育目標を見直し、改善を的確に行っていると思います。(朝日氏)</p>
<p>4 教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p>2</p>	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職率(就職者/専門分野就職者)100%、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では、高い就職率を維持しているが、専門就職率、就職対象率の向上も課題として取り組んでいる。</p> <p>退学率では、今後も学生個々の徹底したフォロー、カリキュラムの工夫、担任・副担任制度の強化、学生カウンセリングの強化等々を実施し、退学率0%達成に向け、努力を惜しむことはない。</p>	<p>教育成果の1つである就職は、年々、専門就職率が向上しているが、早期就職決定を目標に努力を続けている。</p> <p>また、できるだけ多くの学生に夢をかなえて就職するよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。</p> <p>学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。</p> <p>退学率では、転科・転専攻等の個別カウンセリングの強化、支援クラスの立ち上げなど、現状以上に体制を整え、1人でも退学者を出さない学校になるべく、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。</p>	<p>【評価点・・・2】</p> <p>個々の個性の特色に種別が多様化しているため、コントロールするのは限界が生じるのは仕方がないことだとも思います。(田中氏)</p> <p>難しい面はあると思いますが継続して行ってください。(西川氏)</p> <p>現状の社会で退学者を0名というのは難しい課題ではあるが、努力をすることに意味があると思います。</p> <p>カウンセリングができる環境があるのは素晴らしいと思います。(松本氏)</p> <p>教育の成果は長い目でみないとわからない部分も多いです。(井上氏)</p> <p>数字だけでなく、中身・内容をしっかり見ていくことも重要だと思います。(池田氏)</p> <p>様々な対策ができていると感じます。(高橋氏)</p> <p>就職の質に立ち向かっており、多様な人間関係を持つ学生の退学者ゼロを目指し創意工夫を行っていることは高校側としても安心であり信頼がもてます。(朝日氏)</p>

5 学生支援	5-23 就職に関する体制は整備されているか	3	<p>本校では、学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。</p> <p>しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。</p> <p>それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。</p> <p>学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。</p> <p>①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。</p> <p>②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援している。</p> <p>③学生生活については、担任及び副担任制により行うが、それ以外にも滋慶トータルサポートセンターという悩みや相談を受ける専門部署を置き、支援している。</p> <p>④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援している。</p> <p>また、学生の課外活動であるサークル・同好会について、学校が年間予算を計上し、担当者を配置して、支援し、学生満足度アップに貢献している。</p>	<p>滋慶学園グループでは、「学生はゲスト」というコンセプトがあるが、本校でもこのコンセプト通り、学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。</p> <p>その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では非常に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。</p> <p>キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」の指導から、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。</p> <p>また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」、一斉メールなどシステムの構築をもし、迅速な対応ができるように支援している。</p> <p>このような支援体制の結果、高い就職率を誇っている。</p> <p>さらに卒業生に対しても転職の相談や、就職イベントへの参加斡旋等を通じて支援を怠らない。</p> <p>「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。</p> <p>即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。</p> <p>学生の経済的側面に対する支援としては、奨学金に関する専任スタッフを配置し、細やかな支援を実施している。</p> <p>また、精神的・肉体的に通常のクラスでは授業についていけない事情を抱えた学生のため、滋慶トータルサポートセンターと連携し、専任スタッフとともにサポートしている。</p>	<p>【評価点・・・3】</p> <p>学生満足度100%を目指し今後も学生目線の支援体制を継続してほしいです。(根本氏)</p> <p>親元を離れた保護者からの安心感があると思います。(田中氏)</p> <p>良い取り組みだと思います。(西川氏)</p> <p>様々なサポート環境を充実させていることは素晴らしいです。授業以外の支援環境が用意されていることは驚きです。(松本氏)</p> <p>学生はナイーブなので個別の関係で接する環境を構築していくのもいいのではないかと。(井上氏)</p> <p>保護者会があるのは重要です。親の責任と学校の責任の線引きは難しいですが、今後も継続して行っていただきたいです。(池田氏)</p> <p>インターンや研修時のケアも必要になってくると思います。(高橋氏)</p> <p>担任制・保護者会・SSCの組織的取り組みが素晴らしいと思います。(朝日氏)</p>
	5-24 学生相談に関する体制は整備されているか				
	5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか				
	5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか				
	5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか				
	5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか				
	5-29 保護者と適切に連携しているか				
5-30 卒業生への支援体制はあるか					
6 教育環境	6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	<p>本校は、業界で即戦力となり得る人材育成を目的としており、そのための教育環境(施設・設備、機材等)の整備は重要であるが、完備されていると考える。</p> <p>学内の教育環境に留まらず、学外の環境(業界研修、学外演習、海外実学研修)も十二分に整備することが必要であるが、キャリアセンター、教務部、国際部が一丸となって、その整備を行い、教育効果につなげている。</p>	<p>【評価点・・・3】</p> <p>教育環境を万全に整備することが教育効果を高める大きな要因になると考えます。(根本氏)</p> <p>プロの環境と比較しても機材が充実していると思います。(松本氏)</p> <p>学内環境、設備は最高だと思います。(井上)</p> <p>設備面も全く問題ありません。(池田氏)</p> <p>現場に出ることを想定した環境となっておりとても良い(高橋氏)</p> <p>機材環境において、業界に合ったものを導入活用していると思います。(朝日氏)</p>	
	6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか				
	6-33 防災に対する体制は整備されているか				



9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもとに、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査④専修学校各種学校調査等 また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理士システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COMグループ) 滋慶学園グループ、COMグループと全体というスケールメリットを活かし、各委員会、体制、システムにより、各校が常に健在な学校(学科)運営ができるようにしている。 法令や設置基準の遵守に対する方針は明文化し、法令や設置基準の遵守に対応する体制作りは完全に整備できている。	3つ教育「実学教育」、「人間教育」、「国際教育」で「職業教育を通じて社会に貢献する」という建学の理念の実現を目指し、4つの信頼(「業界の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」、「地域の信頼」)を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。 具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。 方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発の牛対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。 監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。 今後は、コンプライアンス相談窓口の設置が必用であると考ええる。	【評価点・・・3】 特に問題に感じるところはありません。(朝日氏) 何かしらの責務を負うことも時には重要だと思えます。(高橋氏) コンプライアンスの重要度は日々あがっていますので、時代に合わせた改良をお願いします。(池田氏) 問題なし。(井上氏) 意図せず情報が漏れ問題になることが多い世の中、その辺を徹底していることは素晴らしいと思えます。(松本氏) 抜け目のないシステムで問題ないと思えます。(西川氏) 法令を遵守することは社会からの信頼につながるため今後も徹底してほしいです。(根本氏)
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか				
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか				
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか				
10 社会貢献	10-46 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	本校には、滋慶学園グループの「4つの信頼」(①業界の信頼 ②高校の先生の信頼 ③学生・保護者の信頼 ④地域の信頼)というコンセプトがある。 この「4つの信頼」の獲得を目指すことが社会貢献に繋がると考えている。 企業プロジェクトへの参加や卒業生の活躍による「業界の信頼」。 業界企業や団体、あるいは小学校等の教育機関とタイアップして行う市民イベント、あるいは地域の方々と共同で行うイベントが「地域の信頼」に繋がっている。 また、スタッフが高校へ出向いて行う特別講義等では、「高校の先生の信頼」に繋がっている。 滋慶学園グループが推進する「地球温暖化防止対策」運動で行っている、節電、冷房温度28度設定、階段利用(2アップ3ダウン)や、イベント等におけるゴミ削減、資源有効利用等々は、学生本人のみならず、来校された保護者の方々からも高い評価を頂戴し、「学生・保護者の信頼」に繋がっている。 特別なことをするわけではなく、滋慶学園グループが掲げる「4つの信頼」の獲得を目指すことが、すなわち社会貢献を果たすことに繋がっていると考えている。	エンターテインメントを学ぶ本校では、教職員及び学生たちが、常に社会貢献を意識した活動を年間通して行っている。 教職員や各専攻の学生たちが、それぞれ特徴を活かし、幅広く、かつ意義のある活動を行っている。その活動が、「業界の信頼」、「地域の信頼」、「高校の先生の信頼」、「学生・保護者の信頼」という、滋慶学園グループの「4つの信頼」獲得に繋がりがり、その結果が社会貢献を果たすことに繋がっている。 今後は、学校の施設や教育ノウハウ等を更に活かし、多様な社会貢献へ発展させていく考えである。	【評価点・・・3】 地域の発展に寄与することが大きな社会貢献だと思えます。(根本氏) 素晴らしい取り組みをされていると思えます。(西川氏) SDGsなど社会貢献の取り組みは大事な取り組みの一つだと思えます。(松本氏) 学生と社会の接点として良いと思えます。(井上氏) 引き続きよろしくをお願いします。(池田氏) 社会貢献が立派な取り組みとなっています。(高橋氏) 学び身につけた知識技術や一体感達成感を活かした活動が多くあり、やりがいや自主性を育みながら社会貢献を行っていると感じます。(朝日氏)
	10-47 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか				